

昔々、一人の敬虔なムスリムがいた。彼は女性との付き合いを好まず、森の中に隠棲して祈りと断食に明け暮れていた。そのうち或る人が訝って、森の中のモスクで一人で暮らして何がいいのかを知りたくなり、どういう策を弄してやろうかと考えた。村人たちは、彼を誘惑するために一人の娘を遣わしたが、彼女はうまくいかなかった。次いで、二人目の女性がその場所に赴き、首尾よく成功した。

村に戻ってその若い女性は、彼を誘惑することに成功し、その証拠もあると打ち明けた。シャツの襟に付いた小さな染みである。村人たちは森に行ったが、その隠遁者は色事など何もなかったと否定した。そこでひとりの村人が証拠のことを思い出した。村人たちがそれを見て、彼を嘘つきで偽善者として追い出した。